国際親善ニュース

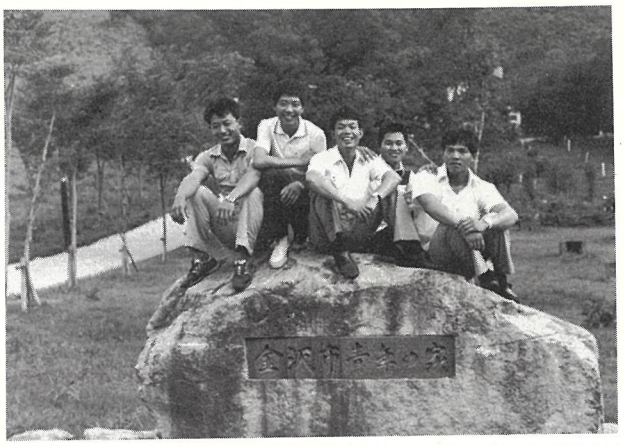
第　9　号
昭和58年３月31日発行
金沢市都市提携委員会
事務局：金沢市総務部総務課
国際親善係　ＴＥＬ　20－2075

歓迎！　蘇州農業青年

○蘇州市農業研修生来訪

蘇州市との調印後、初の大型交流事業として、57年５月９日から同年11月６日までの６ヶ月間蘇州市農業研修生が本市に滞在し農業研修に励んだ。これは両市の交流計画に基づき実施されたものである。一行は全員男性で邵偉忠（25才）を代表とし、杜三男（24才）、鄭弟弟（24才）、陳金男（27才）、伍家龍（25才）の５名。皆、蘇州市の４人民公社から選り抜かれた農業青年である。来沢前に蘇州市で５ヶ月間日本語の特訓を受けただけあって、日常生活にはほとんど支障は無かった。学習分野は野菜関係のみで、１名ずつ本市の安原、打木両町の専業農家に住み込み、農家の方々と共に実地に日本の農業を習得した。５月９日（日）午後１時半、一行５名を乗せた中国民航機が成田空港に着陸、入国手続を済ませ出迎者を見付けるや「コンニチワ」と人民服を着た堅実そうな中国青年の顔が微笑んだ。さっそく宿舎に向い日本での第１夜を迎えた。翌10日は中国大使館の訪問、東京都内の参観をした。11日午後２時25分、大勢の関係者が出迎える中金沢駅に到着、熱烈な歓迎を受けた。すぐさま金沢市役所をはじめ石川県、金沢市農協、金沢市中央農協を表敬訪問した。同日夕、宿舎の会場で「歓迎会」に出席、吉田勉金沢市都市提携委員会会長ほか多くの市民より盛大に迎えられた。翌５月12日から同15日まで、研修計画の打合せ、日本の農業、金沢の農業、金沢の生活、風習等についての事前研修を行い、15日午後各受入農家に移動、日本の農家での生活の第１歩が始った。５月25日第１回集合研修を実施、中国の人民公社の実情を聴取、農業の基礎理論について説明した。６月に入り、気候も少しずつ暖かくなり市内、県

内のイチゴ、トマトなどの農業視察や「接木」の実習を行った。また、とりわけ研修生たちが興味を示したのは、恒例の百万石まつり（6/13～6/15）であり、郷土芸能選や日展の鑑賞や百万石行列の見物を楽しんだ。７月に入りめっきり暑くなり夏バテの心配もでてきたが、折り良く７月４日から10日まで蘇州市から経済貿易訪問団が来沢、懇談し激励された。８月に入り、いよいよ６ヶ月の研修期間も半ばにさしかかった。８月３・４日両日暑い夏を乗り切るため、能



登農業視察も兼ねて、１泊２日の能登一周に出かけた。事前研修の察、話してあったこともあって、研修生たちは待ち望んでいたらしく、美しい夏の能登を脳裏に刻んだ。特に、恋路海岸、千里浜での研修生にとって初めてという海水浴は貴重な体験であった。さらに、旧盆期間中（8/15～8/17）は農家への計らいもあり、市青年の家にて講義研修を行い、盆踊りにも参加して日本の夏を満契した。９月は天気も少しずつ涼しくなり、凌ぎやすい季節となった。９月16日から18日まで２泊３日の日程で、関西方面の視察に出発、大阪、京都市内の見物を楽しんだ。また、18日午後５時金沢に戻るとすぐに、折しも来訪中の中国卓球代表団の歓迎パーティに出席、なごやかに交歓した。また、生活体験として９月28日本市のサラリーマン家庭に１名ずつ民泊し、農家以外の市民生活を味わった。10月に入り研修も終盤を迎え、研修生の間から日本の工業も１度視察させてほしいとの要望があり、小松製作所など県内の代表的企業を訪問、素晴らしい思い出となった。11月１日、いよいよ長い間御世話になった農家の方々に別れを告げ、３日まで事後研修を実施、研修の成果をまとめた。４日晩、金沢最後の夜、宿舎の「兼六荘」に於いて盛大に送別会を開き、関係者多数と再会を誓い合って別れを惜しんだ。研修生は日本語もうまくなり、日本語で「四季の歌」などを披露、喝采を浴びた。11月５日早朝、多くの市民が見守る中、金沢を離れた。晩７時、大阪のホテルに到着。夜遅くまで農家の方々との話が尽きなかった。11月６日、いよいよ帰国の日が訪れた。研修生は家族と会える喜びと日本の友人と別れる寂しさが交錯、複雑な表情に変っていた。正午、ＣＡ９１６便上海行の搭乗アナウンスが流れた。研修生も農家の方も関係者も胸いっぱいとなり涙がこぼれ、共に再会を誓って別れた。午後１時定刻、研修生を乗せた飛行機は日本晴れのかなたへと消えた。（**写真**左は接木実習風景、**写真**右は金沢市青年の家入口にて）

Welcome to カナザワ！

○蘇州市経済貿易訪問団来訪

57年７月４日から同月10日まで、蘇州市経済貿易訪問団が来訪した。一行は徐星釗蘇州市副市長を団長に紡績、貿易等の関係者６名。４日、成田に到着、５日は中国大使館表敬訪問をはじめ東京都市を参観した。６日午後２時半列車で金沢に到着、さっそく金沢市役所を訪問、江川市長、吉田本会会長らの出迎えを受け、なごやかに歓談した。来訪を記念し、金沢市から九谷焼などの記念品が、また訪問団から貴重な掛け軸と庭園写真集「蘇州古典園林」がそれぞれ贈呈された。このあと、一行は金沢商工会議所や国貿促北陸支局等を訪問し友好を深めた。７・８日両日は市内の機械、織物、漆器工業などを視察、また本年５月から滞在中の蘇州市農業研修生と懇談、激励した。９日は貿易の打合せ後、市内観光を楽しんだ。10日午前10時７分、江川市長ら市関係者や各関係団体の人々多数が見送る中、列車で次の訪問地大阪府池田市に向った。一行は17日まで滞在、17日午後帰国した。（**写真**は江川市長を表敬訪問し握手を交わす徐団長）

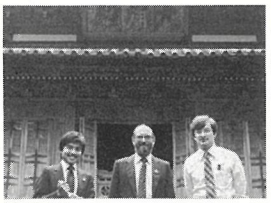
○新イルクーツク市長ら来沢

57年12月４日、イルクーツク市からシクロバト市長ら同市執行委員会代表団４人が金沢入り、早速市長室にて江川市長や吉田本会会長と両市の末永い友好を確認し合った。同団は、５月に就任したばかりでこれが初来日のシクロバト市長、女性で市会議員のカトコバさん、エンヂニアのシャブリン氏、ＡＰＮ通信社極東シベリア支局長のオストロウーモフ氏から成るメンバー。同４日、穏やかに晴上がった初冬の空の下、幾何学模様の雪吊りと兼六園のシンメトリー景観に感嘆した一行は、同夕市民歓迎会に臨み、15年に亘る両市の相互交流システムと緊密なコンタクトに基づき友好の誓いを新たにした。同団は本市滞在中、市文化ホール、市立図書館、西部処理センター、駅西区画整理事業、北国新聞社等視察、中西県知事、森根上町長、嵯峨北陸放送社長と精力的に会見し、９日東京を見学、10日新潟から空路帰国した。（**写真**は駅頭での出迎えから）

○ナンシー市マゾー助役夫妻来沢

57年12月６日夕、ナンシー市の財政担当マゾー助役夫妻が金沢駅に到着した。今回は、マゾー氏が取締役をしているフランスの地域開発金融公社と日本の金融機関とのローン提携調印式に出席するために来日したが、この機会を利用し、遠く離れたナンシーの姉妹都市金沢を是非訪問したいという同助役の希望が叶って金沢を訪れることとなった。７日朝、江川市長、吉田本会会長らの出迎えを受けて市役所入りした同助役夫妻は、ナンシー市の財政問題などマゾー氏の専門分野の話題を交えながらも、終始和やかな雰囲気のうちに表敬訪問を終えた。７日午前、初冬の兼六園散策、成巽閣、県立美術館を見学。午後は利岡光仙窯、観光物産館を訪れた後、市民の台所近江町市場を見学した。８日は金沢市文化ホール、市立図書館、金沢港などを視察した。滞在中同助役夫妻は、伝統的かつ近代的な金沢を十分理解し、８日午後金沢を離れた。（**写真**は兼六園を散策するマゾー助役夫妻）

○バファロからゲール医師来訪



57年10月５・６日両日バファロ市からエリオット・ゲール博士（43才）が来訪した。同氏はニューヨーク州立大学（バファロ校）歯学部の教授で、今回は岐阜歯科大学との共同研究に来日、これを機会に姉妹都市金沢を訪れたもの。５日午前11時25分、列車で金沢駅に到着、金沢市役所に江川市長を表敬訪問し、懇談した。バファロからは約１年ぶりのお客さんで、江川市長は「金沢の良さを少しでも味わって下さい」と歓迎した。来訪記念に、市長から加賀友禅の卓布が贈呈されるとゲール氏からはバファロ創立１５０周年記念の飾り皿がプレゼントされた。このあと、同氏は金大附属病院を視察、午後３時から同病院で「あご関節症」に関する講義を行った。６日は金子金大学長を表敬に訪れた後、兼六園を見学、午後12時37分列車で金沢を離れ岐阜県高山市に向った。（**写真**は大乗寺を訪れたゲール博士）

○ナンシーから経済使節団来沢

57年５月19日、ナンシーからの経済使節団一行16名（団長、ナンシー市議会議員、ジェラール・ガブリエル氏）が金沢入りした。一行はナンシー市にあるムルト・エ・モゼール商業会議所の輸出担当ローラン氏と同会議所のメンバーである工作機械製造業者、印刷業者、香水商、リキュール酒醸造業者などの実業家およびマスコミ関係者からなり、東京、大阪で日本の経済情報を収集するために来日したもので、この機会を利用し姉妹都市金沢を訪問した。20日午前、一行はまず金沢市役所に江川市長を表敬訪問。昭和55年に江川市長一行がナンシーを訪問した際催されたショー・ウィンドーの飾り付けコンクールや、ナンシー市ブルーゼ＝ジュルバン助役の近況等の話に花が咲いた。引き続き金沢商工会議所を訪れた一行は、宮会頭らと金沢・ナンシー間の今後の経済交流等について意見を交換。午後からは兼六園、デパートを見学し、同日夕次の訪問地大阪へ向けて出発した。（**写真**は江川市長と記念品を交換するガブリエル団長）

○ナンシーから５人目の交換留学生

57年６月16日、　ナンシー市から５人目の留学生として、ジャッキー・グロスプレートル君（24才）が金沢に到着した。６月15日成田空港に着いた同君は、16日午後４時25分着の特急「加越５号」で金沢入りし、疲れも見せずその足で金沢市役所を表敬訪問。早速江川市長に、「まず日本語を勉強し、日本の生活環境に早く順応したい。伝統工芸をはじめ、日本の芸術に大変興味がある。」とあいさつした。同君はナンシー美術学校コミュニケーション学部でイラストやグラフィック・デザインを専攻している学生で、58年３月まで金沢美術工芸大学産業美術学科の聴講生としてグラフィック・デザインなどを勉強し、無事その課程を終了した。金沢滞在中同君は、市内の一般家庭、竪町の清水さん宅や増泉の中田さん宅に下宿し、日本の家庭生活を体験した。

姉妹都市で親善ハーモニー

○吉田都市提携委員会会長、バファロ、ポルトアレグレ訪問

吉田本会会長一行が、バファロ、ポルトアレグレの両姉妹都市を親善訪問した。57年８月26日まずバファロに到着した一行は、空港にバファロ・ロータリー・クラブ金沢姉妹都市委員会ウィリアム・キャスティング氏およびバファロ市の代表者の出迎えを受けた。市内のスタットラー・ホテルで催されていたロータリー・クラブの定例昼食会に案内された一行は、早速会員に紹介され親交を深めた。昼食後、バファロ市役所にグリフィン市長を表敬訪問した吉田会長らは、同市長と金沢・バファロ間の今後の交流等について意見を交換。同日夕には市内のレストランに招待されるなど、心のこもった歓迎を受けた。続いて一行はポルトアレグレに９月１日到着。日本総領事館の丸橋氏やポルトアレグレ市関係者に出迎えられ、その足で日本総領事を表敬訪問した。翌朝、ポルトアレグレ市長および同市議会議長を表敬訪問。特に市議会議員選挙で多忙にもかかわらず議長自らの案内で議場等を見学した。同日夕、総領事公邸に総領事主催のレセプションに招待され、ポルトアレグレ在住の日本人と懇談し、翌３日ポルトアレグレを発った。（**写真**はバファロ市長と握手する吉田会長。右側はキャスティング氏）

○音楽使節団、イルクーツク市へ

57年10月１日から８日まで、金沢市音楽使節団一行15名が竹中喜三次消防本部次長を団長にイルクーツクを訪問した。姉妹都市提携15周年にあたる記念すべき年、「ファイアー・バーズ」とネーミングされた同団は、美事、音楽の架橋を築いた。時に、イルクーツクでは「黄金の秋」音楽フェスティバル開期中、一行に寄せる期待は予想以上。２日、工科大学講堂に1500名、３日、ジルジンスキー劇場に３００名、４日、州立フィルハーモニーコンサートホールに８００名、６日、文化会館に５００名、それぞれ超満員の聴衆を前に、ポピュラーから日本、ロシア民謡、演歌まで幅広いレパートリーを披露、４回に及ぶ演奏活動は成功裡に終幕した。なお、同団は滞在中バイカル湖を含む市内名所旧跡を見学、青年男女と交歓し、８日帰国した。（**写真**はディスコダンスを楽しむメンバー）

○第11回金沢市青少年代表海外派遣団再訪蘇

第11回金沢市青少年代表海外派遣団が昨年に引続き今回も、中国の青少年と親善交歓し国際的視野を広めるため、訪中した。一行は隅田一雄市人事課長を団長とする本市の青少年で構成される15名で、57年８月13日出発、同月23日金沢に戻った。14日から16日まで、万里の長城、天安門広場、故宮など北京の観光を楽しんだ。17日、南京に飛び長江大橋等を参観、19日は揚州で漆器などの工芸品を見学した。20日、いよいよ蘇州市に入った。当地で、本訪問団の最大の目的である蘇州市青少年代表者との交歓会が開かれ、当訪問団が中国語で中国の歌を合唱すれば、蘇州市の青少年は日本語で日本の歌を披露、友情を深め合いなごやかに交歓した。この他、蘇州滞在中、寒山寺、刺繍研究所、人民公社、留園、虎丘等を参観、22日午前関係者多数の見送る中、蘇州を離れ帰国の途についた。
（**写真**は蘇州市青少年交歓会での記念撮影）

○石川青年の翼、ゲントで家庭生活を体験

「'82石川青年の翼」の一行40名が57年11月１日・２日の両日ゲントを訪問し、一般家庭滞在等を通してゲント市民と友好を深めた。11月１日ゲント入りした青年の翼の一行は、まずゲント市内のスクール博物館においてゲント市主催の歓迎レセプションに臨み、同博物館内を見学した。クラスレイ通り等を市内視察後、一行は夕刻７時からＶＴＢホールにおける民俗舞踊団〝ダル・グリート〟をはじめとするゲント市民との交歓会に出席した。初めのうち緊張ぎみであった一行は、ベルギーの民俗舞踊のステップを教えられたり、かたことの英語でゲントの人達と言葉を交わすうちに、すっかり現地の人達と和やかなムードとなった。この交歓会の後一行は、ゲント市在住のデヨンゲ氏の尽力により、それぞれ一般家庭に分宿しゲント市民の家庭生活を体験し、翌２日次の目的地ロッテルダムに向け出発した。

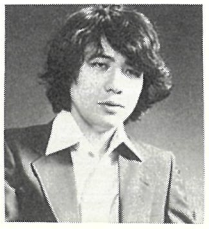
○「音楽の翼」蘇州市で親善公演

上海市と蘇州市で邦楽と合唱の日本のメロディーを紹介するため57年８月21日から同月26日まで石川県音楽文化協会副会長橋場和史氏を団長とする一行79名の「金沢音楽の翼」が訪中、大成功を収めた。教科書問題で大揺れの時期だっただけに不安もあったが、現地での熱烈な歓迎ぶりに胸を撫で下した。23日夕、上海工人劇場で上海公演を、25日夕、蘇州市友誼会堂で蘇州公演をそれぞれ上演、邦楽「春の歌」、「黒田節」、合唱「四季の歌」等を敢えて〝本物〟で披露し、観客を魅了、「アンコール」の拍手喝采が起り友好ムードは最高潮に達した。特に、蘇州での方明市長が先頭に立っての歓迎は一行を感激させ、友好の絆の強さを改めて感じさせた。大役を果したという実感を胸に26日蘇州を後にした。（**写真**は蘇州公演の尺八演奏風景）

○石川県婦人海外派遣団バファロ訪問

土用下欽子石川県婦人団体協議会副会長を団長とする「'82石川県婦人海外派遣団」一行25名は57年８月24日から９月２日までの10日間カナダ、アメリカの各都市を訪問、福祉、文化、産業等の施設を見学し、相互理解、友好親善を深めた。24日バンクーバーを訪問、25日はトロントで日系人ホームを視察、翌26日はすぐ隣りのダンダス町の身障者施設を訪れ、27日、国境を越え本市の姉妹都市バファロ市に入った。同地は29日まで滞在、バファロ市長表敬訪問をはじめナイアガラ滝、病院等を見て回り、27日晩、２～４名ずつに分れ同市の10家庭を訪問、しばし米国の家庭生活を味わった。30日、ニューヨークで国連本部を訪問、31日はロスアンゼルスに飛び、ディズニーランド等を見物、９月２日帰国した。（**写真**はバファロ市での交歓会風景）

○金沢の若手ピアニストがゲントでリサイタル



金沢在住の若手ピアニスト、中村攝氏が、57年４月22日ゲント市のバイローク博物館においてリサイタルを催した。このリサイタルは、昨年10月に金沢を訪れたゲント市モレーウ助役夫妻の歓迎会において中村氏が演奏を披露したところモレーウ助役から中村氏を是非ゲントに招待したいという申し出があり実現したものである。中村氏はこのリサイタルにおいて、自作をはじめプロコフィエフ、

ストラビンスキー、チャイコフスキー、ルービンシュタインなど高度な技術を要する変化に富んだ内容のプログラムを音楽性豊かに演奏し、来場のゲント市民に感動を与えた。ゲントの聴衆の音楽的レベルは非常に高く、伝統ある修道院をそのまま博物館にした会場の音響も大したものだった。そして何よりも素晴しかったのは、音楽を通してゲントの人達と友好を深めたことだと、帰国後中村氏は感想を述べた。（**写真**はゲントでのリサイタルのプログラム）

プロフィール

○中国農業研修生を迎えて

蘇州市農業研修生受入農家代表　　松　原　　保

昨年５月中旬より11月初旬の約６ヶ月間、金沢市の友好都市であります中国蘇州市より農業研修生を迎える事になり安原地区の５軒の農家に分宿しそれぞれ専攻する野菜果樹の研修をする事になりました。金沢市側でも国外からの農業研修生の受入れは初めての事でもあり、私共農家も全く未経験の事で数回の打合せ会を行いましたが、皆さんが一番心配したのはやはり言葉と食事の事でした。いよいよ受入れの日がやって来まして、其の歓迎会を兼六荘で盛大に行って頂きました。が、そのとき研修生の団長である邵偉忠君が余りにも上手な日本語で挨拶されて私達を初め関係の方々を驚かせたものです。心配していた食事についても殆んどのものは喜んで食べてくれましたが、生魚だけは最後まで余り喜ばれなかった様でした。研修内容については基本的学習は農政課で集合教育がなされ、私共受入農家は露地野菜（西瓜、大根）を主体として施設野菜（半促成胡瓜、抑制トマト）を取入れられている農家、又果樹（葡萄）を主体に進まれる方等であったが、時期に応じて受入農家間での作業の交換をして頂いた事も研修生に好感がもたれた様です。５名のうち独身の方が１名、４名の方が結婚間もない皆さんでしたが、本当に誠実であり作業熱心で圃場での質問やノートする等の積極さにはいつも私達は感嘆させられました。又、近隣の方や町の皆さんにも親しまれ、校下、町会の慰安会等にも出席させて頂き終始和やかな談笑が出来、日中友好の一助となし得たと思い喜んでいる次第です。11月に入り、いよいよ全日程を終え帰国される事になりました。伊丹空港で飛行機が見えなくなる迄見送っていたのもつい昨日の様に思われてなりません。どうか研修生の皆さんが益々元気で中国農業の指導者となって頑張られん事を念願しております。

○ゲントでの演奏会を終えて

中　村　　攝．

昨年４月、私は姉妹都市文化交流の一環として、ベルギーのゲント市においてピアノ・リサイタルを開催する機会に恵まれたことを大変嬉しく思っています。演奏家としては、まだまだ準備期間の域を出ない私にとって、一般聴衆の前で演奏する機会をより多く経験することは、必須の修業課程と考えております。その機会を、金沢市の姉妹都市でフランス語で意志を通じることができるゲントにおいて得られたのは幸運でした。出発のかなり前からゲント市当局の担当者と電報や手紙でプログラムなどについて何度も打ち合わせをしたので、出発前の準備に関して不安はありませんでした。まず成田から、音楽修業のために４年近く住みなれたパリに直行。パリからブリュッセルで列車を一度乗り継ぎ、ゲントまで４時間程かかりました。コンサートの会場は博物館内の会議室のようなホールで、大変残響が多く、ピアノはスタインウェイとは言え、いかにも博物館に似合いそうな骨董品のようでしたが、私のリサイタルのために他から借用して来たということを知り、本当に驚きました。演奏会当日は、３００席位のホールがほぼ満席の盛況で、このリサイタル開催に御尽力くださったゲント市当局の御厚意を感ぜずにはいられませんでした。一般聴衆の市民の皆さんや、お世話くださった市当局の方達も、演奏内容にかなりの評価を与えてくださいましたが、私自身表現者として、きびしい自己採点をしなければならぬと思います。その晩私が宿泊していたホテルで、助役夫妻をはじめゲント市当局の方達と食事を共にしながら、曲目の感想や私の音楽家としての生き方について時を忘れて話し合えたのも、嬉しい思い出です。またその時の会話で今さらながらヨーロッパ一般聴衆の音楽に対する見識の深さを改めて印象づけられました。そして私の念願である無名作曲家の作品紹介についても理解を示してくださり、翌日は市内観光もそこそこにゲントの音楽院の図書室に案内され、貴重な楽譜のコピーを贈呈されました。これは私にとって何ものにも代え難いプレゼントで、心から感謝しています。ちなみに、ゲント訪問の前後は専らパリでの楽譜収集に時間を費しました。以上のように私の姉妹都市でのリサイタルは終始ゲントの人達の親しみに満ちたものでした。将来一層実力を身につけ、再度ゲント市を訪れる機会があるような予感がしてなりませんでした。

○農業研修生からお礼の手紙

蘇州市農業研修生　　邵偉忠

陳金男　杜三男　鄭弟弟　伍家龍

尊敬する関係諸先生

11月５日に皆様と名残り惜しく別れた後、私達は６日の午后７時無事に家に着き家族と５月に別れた後のことについて歓談しました。先生方のお陰をもちまして家族は皆無事でした。先生方とお別れしてわずか半月経っただけですけど、本当に１日会わなければ３年も会わないような気がいたします。私達は毎日皆様を想わない時はありません。金沢での半年の研修期間中、皆様から賜ったきめ細かな御配慮を一生忘れません。これはまことに「中日両国は一衣帯水の近くにあり、半年は短いけれど兄弟のような友情は末永い」ということです。半年の研修は中日友好に新たな意義をもたらしました。私達５名は今後の仕事の中で全力を尽して中日友好の促進に努力したいと思っています。また、金沢市で学んだ農業技術を蘇州市で花咲かせたいと思います。中日友好の発展につれて、近い将来再びお会いできることを固く信じています。皆様の御来蘇を心よりお待ちしています。皆様の御健康をお祈りいたします。　　1982年11月16日

○バファロ、ゴナード家を訪問して

'82石川県婦人海外派遣団秘書長　　中　田　敏　明

ジーン・ゴナード氏は、バファロ大学、交換留学生部主任教授で、日本からも15人の学生を受け入れているという。バファロから高速道路で約15分の静かな住宅地に住まいがある。敷地はほぼ300m²、平屋建て、３ＤＫの小じんまりした間取りに、半地下のワン・ルームを備えている。前後に手入れのゆきとどいた芝庭が広がり、その緑の空間がなんともうらやましい。ゴナード氏自ら運転の車中、今夜はバーベキューのご馳走を用意しておりますと言われ、これはこれはと、内心わくわくしながら、玄関前に到着。メニューは、赤ワイン、ハンバーグ、ソーセージ、生野菜数種、パン、デザートに人参を細かく刻みこんだゼリーが出る。まことに質素な夕食であった。話題は、料理やこどもの学校のこと、こどもたちは母親に、いつも家にいて欲しいといった話など一。短時間ではあったが、ゴナード家の家族と接し、大変堅実な生き方、質素な暮らしに思いを馳せたひとときであった。

編　集　後　記

いよいよ春本番、木々は芽をふき私たちの心も弾む好季節に入りました。姉妹都市活動は市民の御理解を得て、コンセンサスの上に春の木々が芽をふき上がるよう進めていく必要があります。この点につきまして、事務局も努力しておりますが、まだまだ不十分な点がいっぱいあると思います。皆様方から御批判をいただき、これからの活動の指針にさせていただきたいと思います。この機会を借りまして、御協力のほどよろしくお願い申しあげます。